

親鸞聖人にであう日

善徳寺報恩講にまいりましょう

報恩講は親鸞聖人のご命日を記念していとなまれる年に一度の法事であり、浄土真宗の流れをくむ私たちにとっても大切な年中行事です。そのはじめりは本願寺第三代の覚如上人が永仁二年（一二九四年）に親鸞聖人の三十三回忌を報恩講としていとなまれてのことといえますから、長い伝統を誇るものです。

*

報恩講とは、親鸞聖人の「ご恩に報いる」つどいです。親鸞聖人のご命日を、浄土真宗のみ教えを明らかにされた聖人の生涯をふりかえり、「ご苦労をしのびつつ、そのご恩に報いるために、私もが正しくお念仏のいわれを聞き、身にいただく機会として受けとるのが報恩講です。ですから報恩講は親鸞聖人の法事であるとともに、「私が」親鸞聖人にであい、法にであう大切なご縁なのです。

*



三門からどうぞお入りください

親鸞聖人のご命日は旧暦の十一月二十八日です。浄土真宗本願寺派(西本願寺)ではこれを太陽暦にあらためて一月十六日とし、一月九日から十六日まで報恩講をいとなみます。全国と同派真宗寺院ではだいたいこれに先だつて報恩講をお勤めしますが、私ども善徳寺では、新年早々、一月六日・七日にお勤めしています。当山報恩講には、

役員の方々に前々日より準備にあたっていただき、特別のお飾り

をととのえ、また「おとき」(食事)の準備をして皆さまのご参拝をお待ちします。報恩講当日には、一緒に正信偈などのお勤めをしたり、親鸞聖人のご生涯を物語る「御伝鈔」を拝読したり、また布教使の方から浄土真宗のみ教えをわかりやすく「ご法話」としてお話いただきます。法要の合間に出される「おとき」は独特の献立からなっており、これをいただくことも報恩講の楽しみの一つです。

*

私たちの先達は、さまざま時代の困難のなかで報恩講をお勤めしつつ、親鸞聖人の明かされた「生死いづべき道」としてのお念仏のみ教えをいただき、よろこび、生きる意義を見出されていたのでした。私たちもまた、たしかにその浄土真宗の流れの中にいます。一日、一月、一年があつという間に過ぎてしまうようなあわただしく、また心痛める事件が毎日のように起こる現代ですが、報恩講の日には、ともになごやかでゆったりとした、そして有意義な時間をすごしたいものです。どうか、どなたもお気軽にお誘い合わせご参拝ください。心よりお待ちしております。



報恩講の美味しいおとき